ベトナム

20 Jun, '78 No. 220

Ed; Kou MUKAI
2-12-2, Asahimachi, Abeno, OSAKA, Jap.

ベトナム通信　向井孝
大阪市阿倍野区旭町2-12-2, サルートン

日本の反体制運動（下）

前号二一九号（七月五日号）よりつづく。

Ⓑ〈政治的〉〈社会的〉問題を自分の課題とし、運動とするグループ

Ⓑ-① (1)〈反戦〉〈反基地〉〈反軍〉〈反核〉〈反安保〉〈反軍兵士支援〉〈反軍需産業〉。〈反靖国〉たとえば―　山西反軍裁判の会（町田・戸塚裁判支援の会）。横田基地解体連合。たゞの市民が戦車をとめる会、相模補給廠監視団。沖縄基地をのぞく会。ヨコスカ市民グループ。下関市民社。金沢反戦市民社。安保拒否百人委。安直し市民連合。反戦市民懇談会。ちようちんデモの会。はんせん馬天港。五軍母の会。立川自衛隊監視テント村。自衛隊と連帯し習志野基地を解体する会。原爆体験を伝える会。良心的軍事費拒否の会。三菱一株々主会。

ここにあげた運動のほとんどはベトナム反戦運動の持続としてあるいはその新しい継承として生れてきたものである。それと同様の意味で、ベトナム戦争終了に伴う、その運動の質的継承とその転換の意味で、次のような運動が、次々にひろがることとなった。

Ⓑ-① (2)〈日本と韓国〉同様に〈台・比・タイ・マレーシアなど東南アジア諸国〉、〈旧南洋諸島〉等との関係としての問題を対象とする運動。

言うまでもなく、ベトナム反戦運動は、かつて日本軍国主義が侵略し植民地化し搾取したそれらの諸国人民に対する責任が、いまなお果されていないことを日本人に想起させるものでもあった。日本の政府がとったきわめて非道義的な戦後処理をそのままに、いままた再び、日本帝国主義としてそれらの諸国の搾取した売春勢力と腐敗堕落した政策をとっているという、日本のベトナム反戦運動自身の問題があった。

ベトナム戦争終結後、ばらばらになった運動目標は、こうして改めてとらえ直されることになった。

たとえばそれは、日本と韓国との歴史や語学の学習などからはじまって　政治犯救援。入管問題・外国人登録問題裁判。大村収容所問題。被爆韓国人。企業の経済侵略。公害工場輸出。戦争責任と補償、観光。樺太残留韓国人問題。久米島新城。ビキニ・パラオ…などの運動が展開されるようになってきた。

それはまた、ベトナム反戦運動を媒介として、〈反戦運動〉が、たんに人道に反する殺戦行為に対して…といった可視的問題を超えて、いかなる国家も〈戦争国家〉以外のものでないこと、その戦争国家の本質と構造に対する〈反国家〉の闘いとなってきているという一面を示唆するものである。

△　△　△

Ⓑ-②　〈反差別〉

ここでの〈反差別〉という用語は、きわめてひろい包括性をもつとともに、問題を差別の視点から、ダブらせてとらえ直すことの意味をあらわしている。たとえば60年頃には〈平等〉とか人権という要求にとどまっていたが、そこに〈差別〉の視点を入れると、自分の要求を促す〈告発〉となるのである。

〈反差別〉運動を大別すると―

① 〈被差別部落〉〈在日朝鮮人〉〈アイヌ〉〈沖縄〉〈天皇制〉

② 〈山谷・釜ヶ崎・コトブキなど〉スラムや集落住民

③ 〈障害者〉

④ 〈弾圧法及びその機構〉（たとえば獄中者救援、裁判斗争・獄出者組合・えん罪・フレームアップ・刑訴法・少年法、監獄法改悪・弁護人ぬき裁判立法、などの運動。）

⑤ 〈労働〉（たとえば労働者と階級の視点から（市民社会における階級・階層の分化とあいまいさを正すものとして）まず何よりもその基底に差別をおくことがなければ、体制内のえもの山わけ運動と化すことは（みるところである。）〈労働運動〉〈労働者〉〈産業〉〈臨時・下請・内職〉〈職種〉

⑥ 〈性〉（たとえば〈フェミニズム〉は他のあらゆる運動グループの質を問うものとして80年代闘争の特性となるにちがいない）〈ホモ・レズ〉〈売春法・売春防止法〉

⑦ 〈教育・福祉〉

これらの運動もまた、ベトナム反戦運動のなかから生れ、その終結後次々にひろがった新しい運動であることにおいて、〈反公害〉〈反戦〉運動の質と軌を一にしていることを、見のがしてはならない。

X　80年代闘争への展望

以上の経緯と状況を、ごく大まかに要約すると、

(1) 〈60年安保〉後にあらわれたものは、戦後の運動原理であった〈議会制民主主義〉と〈政党革新政党〉への失望。それに依拠し期待しえないことに代るもの

○前号、新左翼史の記述に関しては、簡略化のためもあって不正確なことが多い。後日改訂の機をまって、あらためてかき直したいと思う。　6月13日向井

月刊"反原発新聞"

反原発運動の全面的連帯のために、至當困難のおそれをあえてして5月より刊行された。ウリで一応三〇部を引受けているが、いま申込みは5人。ぜひ年間予約を。

月刊「自主講座改題」"土の声・民の声"　定価300円　年間三六〇円

昨日発売の号6月号に〈原発と釜ヶ崎の意味〉を寄稿した。ぜひよんでみて下さい。本稿は〈革命運動としての反原発〉というサブタイトルが示すように、「原発問題」に無関心ないわゆる活動家など、どに対する、問題の提示の仕方をかえたつもりである。（その方法）（8月号）

その方法に対する〈個人〉大衆の運動としての反原発〉をかくつもり。購読申込は東京都文京区白山1の37の9自主講座分室内または（ぼくも）（孝）

として学生運動のなかでの新左翼の登場だった。

② つぐく70年ベトナム反戦運動であらわれた特徴は㋑既成左翼の完全な権威喪失。㋺それに代る学生運動を地盤とした新左翼諸派の競合的活動。㋩市民運動がべ平連の全国的なひろがり。㋥ノンセクトラジカルとしての〈全共闘〉運動。(とくに後者㋩㋥にあらわれた、新しい運動の質とスタイル、即ち、その運動の〈自発性〉へ創造性〉へ反議会主義〉へ非組織性〉は、それが意図されたものでないにもかゝわらず、アナキズムにきわめて近い内実であったことは、80年との関連で注目的である。)

③ ベトナム戦争終結後、数年の沈滞のなかで、いっしかひろがり活動をはじめてきた〈反公害〉〈反差別〉運動のなかに、いま特徴的にみられるものは、あきらかに、ベトナム反戦運動のそのもっとも特徴的な部分を「種子」とし、次の80年代の闘いの前駆として育ちはじめているものーである。

これを通史的にみれば、60年安保においてわずかに萌芽としてあらわれたものが、70年ベトナム反戦において、(その前半期は60年闘争の体質をまだ多くもちながら、後半期には次第にはっきりと)

↑――――――――――――――――――――――↑

70年闘争の特質をもっともよく示すものとなった、ということである。

もっとも、まるでバトンタッチするように、現実の運動のすべてが新・旧交替するわけでない。むしろ旧い体質の部分は、きわめて根深く、さまざまな形で運動内部に居ずわり、のこっている。しかも時代の大きな潮流は、その古さをずるしずる変質させたり、或は、反動化へおしやったりしながら、総体として新しいその時期の運動の質をつくり出すのである。

その意味では、いまこの78年という時期における〈反戦〉〈反差別〉運動は、なお70年闘争のなかの新旧の質を多くもつたままであり、〈反公害〉運動かもつともよく、70年闘争において萌芽した新しい種子をその内実にもっているともいえるだろう。

△　△　△　△

(ここで誤解をおそれずに云うならば、〈新左翼諸セクト〉の運動スタイルは、70年闘争を通過し、かつべ平連や全共闘の影響を、直接間接に多くうけたとはいえ、そのイデオロギー的性格として、なお、抜き難く60年安保後の、(その当初は新鮮であった)いまでは古く硬直した体質をより多く、かつ根強く持ちつゞけている、というべきである。また〈反戦〉〈反差別運動〉が、70年闘争において完全に清算批判しきれなかった、セクトの〈政治主義、中央主義、組織主義〉への心情的信仰、或はコンプレックスをなお捨てきれぬことにおいて(〈反戦〉〈反差別〉とはべつて)70年闘争の新旧の体質をより多く継承していると云える。それは運動対象がしばしば直接的に、行政や権力、あるいは資本そのものだということも原因して、過去にあった政治的闘争のヒナ型に学びやすく乗りやすいーということと共に、そのヒナ型に代る運動のやり方が、まだ見出されていず、しかも見出そうという意識に乏しいーということも一因である。

△　△　△　△

といって〈反公害運動〉が、80年代闘争の新しいカ

*イメージを鮮明してお出でくださる方は、ひらがなばかり送付用封筒(90円切手)とその質を、いま具有しているーとは決して云えない。その運動の今日的現状は、一部においてすでに先駆的であるとしても、ほとんどのものは、体制内における〈住民運動〉であり〈市民生活の改善向上を要求する〉にとどまるだけで終りかねないものでもある。つまり〈反公害運動〉は、〈反戦・反差別運動と共に〉、80年代社会変革要因たる萌芽と可能性その質を雑多な要素のなかにもちながら、まだ未成熟であり、果して結実するかどうかの分岐点にあると云えるだろう。そしてその可能性と萌芽を見出すものは、最近ようやく全国的に注目を浴びかけてきた〈反原発運動〉が〈反公害運動〉の要になるかどうかである。

△　△　△

60年における〈安保〉、70年における〈ベトナム反戦〉とあげるとき、ここ5〜6年後をピークとする80年代闘争の焦点は〈原発〉を課題とするものになるだろう。(すでに世界の状況がそれを示唆している)

その80年代闘争の萌芽を左右するものは、(なるべくすでに萌芽としてある新しい運動の質の自覚的把握であり、その形成といま現在にある〈反戦〉〈反差別〉運動が、その運動の体質内に残存させている、いうならば新左翼セクトの古いイデオロギーをどれだけ否定的に清算しうるか。同様にまた、新左翼諸派が、〈反公害・反戦・反差別〉運動のそれぞれの課題を、自己自身の運動課題としてとらえ、かつ無党派市民住民の運動のなかに溶けこむことができるかーそれをこえ数年の運動方向と質としてつくり出すことができるかどうかーが、まさにそのカギと云わねばならない。

△　△　△　△

そのカギ〉ともいうべきものは、すでに具体的に、それぞれの運動のなかに握られている

第一は〈反原発運動〉がそれ自身のものとしてもつ〈革命性〉である。それは必ずや数年のうちにすべての運動をおき込み、運動自体の体質をも変革する。

第二は〈フェミニズム運動〉である。かりにすべての運動の構成が、女性を主力とし、あるいはその半分を必ず占めなければ、革命運動たりえないーとしたら、そのことだけでも、いまの男中心の運動の質は変らざるをえないだろう。(非暴力直接行動は女性によってさらに発展させられた闘争の武器となるにちがいない)

第三は、すでにいま眼前にある事実と状況の認識としてある。たとえばヨーロッパにおけるラルザック濃縮地拡張阻止の闘いが、全ヨーロッパの各地さまざまの個別的運動を、そのさまざまのままで連合させるものとなり、さらに〈反原発〉においての大連合をみちびいた経過で明らかなように、いますでに〈三里塚〉が、セクトも無党派市民運動をも結びつけ、〈大連合〉をつくり出す可能性として、ラルザックにひとしい立場であらわれているーということがある。

(以下数行省略)

ーとするならば八〇年代闘争への展望は、ぼくらが、これらのカギを、どのように自分の手で活用することができるかーにかゝっていると云わねばならない。(困難であっても)それはまちがいなく可能性にみちた、ぼくらに与えられた(大きなチャンスとそうでないか。)

お断り。80年代闘争が重層的に勃発行があります。*〈自主の反体制運動〉についての批判・感想できればハガキでも、ぜひおよせ下さい。まっています。6月　日。

*イメージを鮮明してお出でくださる方は、ひらがなばかり送付用封筒(90円切手)とその質を、いま具有しているーとは決して云えない。その運動の今日的現状は、一部においてすでに先駆的であるとしても、ほとんどのものは、体制内における〈住民運動〉であり〈市民生活の改善向上を要求する〉にとどまるだけで終りかねないものでもある。つまり〈反公害運動〉は、〈反戦・反差別運動と共に〉、80年代社会変革要因たる萌芽と可能性その質を雑多な要素のなかにもちながら、まだ未成熟であり、果して結実するかどうかの分岐点にあると云えるだろう。そしてその可能性と萌芽を見出すものは、最近ようやく全国的に注目を浴びかけてきたー〈反原発運動〉が〈反公害運動〉の要になるかどうかである。

△　△　△

60年における〈安保〉、70年における〈ベトナム反戦〉とあげるとき、ここ5〜6年後をピークとする80年代闘争の焦点は〈原発〉を課題とするものになるだろう。(すでに世界の状況がそれを示唆している)

その80年代闘争の萌芽を左右するものは、(なるべくすでに萌芽としてある新しい運動の質の自覚的把握であり、その形成といま現在にある〈反戦〉〈反差別〉運動が、その運動の体質内に残存させている、いうならば新左翼セクトの古いイデオロギーをどれだけ否定的に清算しうるか。同様にまた、新左翼諸派が、〈反公害・反戦・反差別〉運動のそれぞれの課題を、自己自身の運動課題としてとらえ、かつ無党派市民住民の運動のなかに溶けこむことができるかーそれをこえ数年の運動方向と質としてつくり出すことができるかどうかーが、まさにそのカギと云わねばならない。

△　△　△　△

そのカギ〉ともいうべきものは、すでに具体的に、それぞれの運動のなかに握られている

第一は〈反原発運動〉がそれ自身のものとしてもつ〈革命性〉である。それは必ずや数年のうちにすべての運動をおき込み、運動自体の体質をも変革する。

第二は〈フェミニズム運動〉である。かりにすべての運動の構成が、女性を主力とし、あるいはその半分を必ず占めなければ、革命運動たりえないーとしたら、そのことだけでも、いまの男中心の運動の質は変らざるをえないだろう。(非暴力直接行動は女性によってさらに発展させられた闘争の武器となるにちがいない)

第三は、すでにいま眼前にある事実と状況の認識としてある。たとえばヨーロッパにおけるラルザック濃縮地拡張阻止の闘いが、全ヨーロッパの各地さまざまの個別的運動を、そのさまざまのままで連合させるものとなり、さらに〈反原発〉においての大連合をみちびいた経過で明らかなように、いますでに〈三里塚〉が、セクトも無党派市民運動をも結びつけ、〈大連合〉をつくり出す可能性として、ラルザックにひとしい立場であらわれているーということがある。

(以下数行省略)

ーとするならば八〇年代闘争への展望は、ぼくらが、これらのカギを、どのように自分の手で活用することができるかーにかゝっていると云わねばならない。(困難であっても)それはまちがいなく可能性にみちた、ぼくらに与えられた(大きなチャンスとそうでないか。)

お断り。80年代闘争が重層的に勃発行があります。*〈自主の反体制運動〉についての批判・感想できればハガキでも、ぜひおよせ下さい。まっています。6月　日。